

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 洞北 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語、数学、英語）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学、英語）

教科に関する調査（国語、数学、英語）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査

○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

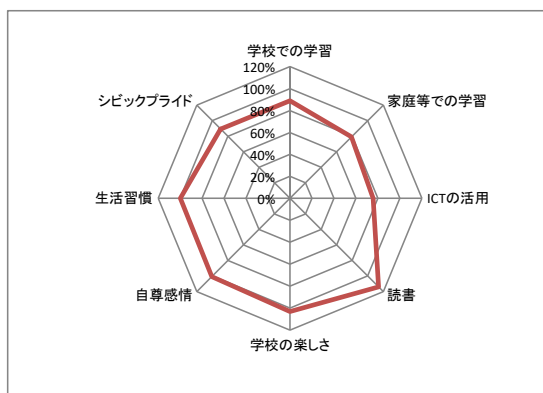
(1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、英語）の結果

本年度の結果	国語		数学		英語	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	10.3	69	7.3	49	6.8	40
全国	10.5	70	7.6	51	7.7	45

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全体的に習熟の度合いが高いことがうかがえた。特に自分の知識や経験について触れながら書くことは日ごろの言語活動で慣れ親しんでいるため、全国平均を大きく上回っていた。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	読書について自分の知識や経験について触れながら書く問題	
	努力が必要な問題	読み手の立場に立って、文章を整える問題	
数学	全体的な傾向や特徴など	正答数分布から習熟が2極化している。しかし、記述式での正答率が全国平均を超え、無回答率も下回っていた。基礎・基本的な内容を定着させるとともに、学習した知識を身近なことと関連づけたり、説明したりする活動が必要である。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	「数と式」に関する問題（基本的な計算問題）での正答率が全国平均を上回っていた。	
	努力が必要な問題	「図形」に関する問題（空間における平面が1つに決まる場合、同位角と錯覚に関する証明問題）	
英語	全体的な傾向や特徴など	対話文や物語などの概要を読み取ったり、目的・場面・状況の中で自分の気持ちや考えを伝えたりする「思考・判断・表現」を問う問題に課題があったものの、無回答率は全国平均よりも大幅に下回っていた。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	記述式の正答率が全国平均を上回り、無回答率が低かったことは、日ごろの言語活動の成果といえる。	
	努力が必要な問題	対話文や物語などの概要を読み取る問題が課題である。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・「読書が好きだ」と答えた生徒が多かったのは、国語科での「ビブリオトーク」や「味見読書」などの取組に加え、学校図書館職員の方が読書に関する掲示や放送による読書ランキングの発表など、きめ細かな指導を行っている成果である。 ・授業におけるICTの活用について多くの生徒が有用性を感じている反面、「1・2年生の時に受けた授業でICT機器をどの程度使用したか」という質問での割合が低かった。昨年度より、ICTの活用を1つの研究テーマに据えて実践を行っているため、今後の成果が見込まれる。 ・「普段1日当たりどれくらい家庭学習をおこなっているか」について1時間以上と答えた生徒の割合が半数程度にとどまったため、今後新たな取組を検討していきたい。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

昨年度よりI、CTを活用した授業実践に取り組むとともに、英語教育リーディングスクールとして、アウトプットとフィードバックについて研究をおこなっているため、現在その結果を検証しているが、どの教科においても、「思考・判断・表現」の観点での正答率に課題があるため、思考力を養えるような授業改善を行っていききたい。

② 家庭生活習慣等に関する取組

家庭学習の定着が喫緊の課題である。今年度よりAIドリルでの補充学習を行っているが、より充実した家庭学習の取組を職員間で検討したい。また、生活習慣についてスマホを使用する割合が増加するとともに、SNSでのトラブルも増加している。今後家庭と連携して、スマホの適切な使い方について指導していききたいと考えている。